

2024春のナースウェーブ開催！



2024春のナースウェーブメイン企画は**国境なき医師団の小杉郁子さんの講演**でした。

小杉さんは5月12日生まれで、ナイチンゲールと同じ誕生日。2014年からは福井県済生会病院で血管外科医として勤務。2008年より国境なき医師団（MSF）の活動に参加され、今までにナイジェリア、イエメン、南スーダン、カメルーン、パレスチナで活動、昨年はパレスチナ・ヨルダン川西岸地区で医療活動に従事されました。以下の概略と、紛争下に取り扱った症例やアートセラピー等についてお話されました。

●国境なき医師団応募のきっかけなど

国境なき医師団（以下：MSF）は医師を含む医療系だけでなく、非医療系（各種調整・物流・警備など）職員が50%。海外の活動地に派遣された日本人は89名（2022年実績）。スタッフは国際派遣だけでなく、現地採用も多い。2005～2007年ドイツへ留学。国の未来を考え勉強する同僚に衝撃を受け、勧められたことがきっかけ。外科医の扱う疾患は多岐にわたるため、外科医師のスキルを海外で生かせるMSFに応募。

●長く続く内戦で「平和」を知らない人々も

イエメンへはジブチ経由でボートで渡航。イエメンは小火器（銃など）保有数はアメリカの次。頻繁に銃撃戦がある。南スーダンは1956年から内戦状態で「平和」を知らない人がほとんど。難民キャンプの病院の運営が仕事。悩んでいるのは病院などへの攻撃。2015年アフガンでアメリカの誤爆で患者・スタッフ42名が死亡。2023年、ガザ・イスラエルの抗争でMSFの車が攻撃・破壊された。支援に行っていたパレスチナ自治区ヨルダン川西岸ジェニンの病院は寄付や支援で維持はできているが非常に不安定。停電も多い。

●紛争下の医療で何ができるか

紛争下の医療で何ができるか？安全性・医療資源の制限・文化や考え方の違いはあるが、「チームワ

●講演後の質問など

- ◆支援活動は国境なき医師団単独で？
→国連・赤十字と組んで支援することが多い。バラバラの時も。
- ◆日本にいる私たちに何ができるか？
→紛争地などの報道が減っても、現地では苦しみが続いていることを忘れないでほしい。
- ◆使命感だけではがんばれない。辞める人を止められない現状をどうすれば？
→私たちは基本「人間」。いやなことや辞めたいことある。我慢する必要はない。「つらいことは共有する」こと。消化し、思いを共有することが大事。
- ◆後継者育成のため、看護の魅力をどう伝えていくか？
→看護師は現地採用、支援は教育係が多い。難しい問題。





●感想交流グループワーク

- ◆戦争は命の平等を阻害する。平和が大事
- ◆医療資源ない苦しさ。資金が潤沢にあればいいが。教育支援も必要か？
- ◆自分たちに何ができるか？やはり平和が大事。
- ◆戦争の残酷さ、同じ医療従事者としての葛藤を感じた。経営重視といわれる中、災害派遣などの病院としての課題がある。
- ◆文化・価値観の尊重。紛争で市民が傷つけられる現状知った。戦争しか知らない子どもたちのことを思うとつらい。現地の権力や政治を変える事が必要。・・・などの感想が出されました。

【職場からの報告】

京都市職労病院支部 太田副支部長

◆メーデーに4年ぶり参加。こういう集会は大事。市立病院は慢性の人員不足。ベア支援評価料、国の制度ひどい。安全安心の医療を支えるため職員に還元を、と闘っている。闘わないと労働条件前進しない。今日の集会は医療人として誇り持てる集会だった。



太秦病院労組 松岡委員長

◆慢性人員不足で休めない。賃上げなしの回答で初めてのストを不安の中でみんなに支えられ決行し、大きな力に。安全安心の看護のためは人が足りない。人員不足改善のために賃上げを、患者さんのために仲間を増やしてがんばる。

京都民医労 立花委員長

◆ベア評価料は分断を生む内容。民医連は命の平等を掲げて医療実践しているのに矛盾を感じながら闘っている。5/11「ニッパチ闘争」の学習会に20名参加。先人の闘いで今があることを実感。憲法9条のおかげで平和に暮らせていた日本は重要な岐路に。平和まもるための医療介護実践を進めたい。



終了後、烏丸御池で署名宣伝行動を行いました。
全体参加は45名・青年部コーヒー販売は4,200円でした！
参加された皆さん、大変お疲れ様でした！

